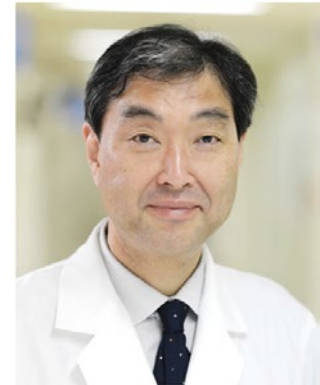


## 信州がんセンター（腫瘍内科、緩和ケア科、治療放射線科）

### 診療科の特色

信州がんセンターは、化学療法、放射線治療および緩和ケアのがんに関する総合的な治療を行っています。がん患者の包括的内科医療を提供し、有能な腫瘍内科医、放射線治療医、緩和ケア医を育成することを目指しています。

小泉知展教授

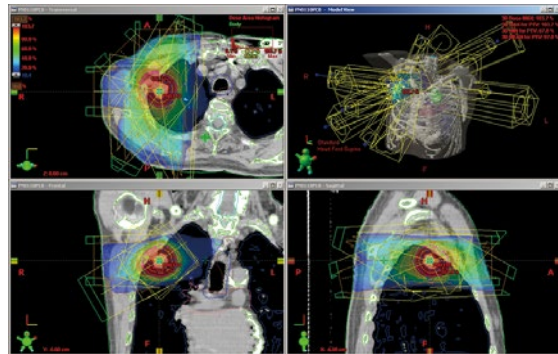


従来の内科的がん治療は殺細胞性化学療法薬にて行われてきました。しかし現在のがん治療は、がん細胞のもつ分子遺伝学的な背景因子を模索しながら、個別化治療に進み、従来の殺細胞性化学療法剤に加えて分子標的治療薬の重要性が増してきています。さらにどのがん種でも免疫チェックポイント阻害剤を用いた免疫療法の治療的意義が増してきています。またこれらの新たな薬剤の毒性は多種多彩で内科的知識・経験を広く持ち合わせる必要があります。このような背景から、一診療科で一臓器のがん診療を研鑽するのではなく、臓器横断的に薬物療法を実践できる腫瘍内科医の育成が求められています。当教室の診療指針は、臓器横断的にかつ包括的にがん化学療法や放射線治療を検討し、同時に緩和ケアの早期導入を行い、それぞれの患者に適した総合的医療の提供の推進に努めていることです。それぞれの治療やその集学的治療の基礎および臨床研究に結びつけることを目標としています。

対象疾患は、非手術適応または術後再発の消化器がん、胸部悪性腫瘍、血液悪性腫瘍、原発不明がんなどと、同時化学放射線治療の対象となるような頭頸部癌、食道がん、肺がんなども扱っています。



通院治療室の風景



定位放射線治療の照射野設定

がん治療にはチーム医療が重要であり、医師がその中でリーダー的に協働する必要があります。当施設では、化学療法および緩和ケアをチーム医療として位置づけ、当教室の医師がチームリーダーとしてかかわるように指導しています。

このようにがん治療でも多がん種を扱いかつがん治療の導入から緩和ケアまでがん患者に関わるのが、我々の教室の診療姿勢です。また診療を通じて、独自の研究テーマや多施設共同臨床研究に参加し基礎および臨床研究を進めていくことが教室の理念です。

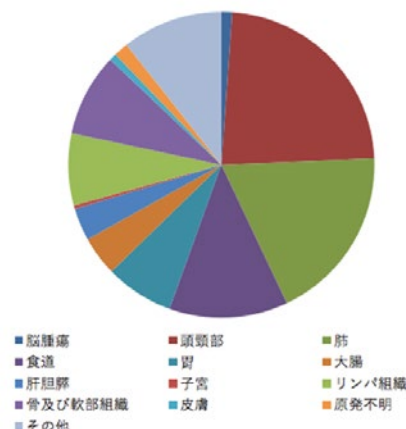


緩和ケア部門 間宮敬子教授



緩和ケアチームカンファレンス

2016年信州がんセンター延べ入院患者の  
疾患別内訳



### ○腫瘍内科医(がん薬物療法専門医)

#### 化学療法という視点から多がん種の治療に精通する専門医

欧米では、手術的初期治療が非対象のがんと診断された患者の治療を、腫瘍内科医が担当します。腫瘍内科(臨床腫瘍医)は、日本ではまだ新しい診療科ですが、本邦でも着実にその専門医数が増加し、それも若い医師の専門医取得志向が顕著になっています。

このように、臓器横断的ながん治療に関わりたいと希望する若い医師の養成は、日本のがん治療を大きく変貌させ、がん治療の進歩とともに腫瘍内科の役割がますます重要となると考えられます。

診療対象は全てのがんであり、年齢も若い方から高齢の方まで多岐にわたります。一般的な内科の知識が必要とされ、総合的な内科医としての診療が可能です。

### ○緩和専門医 緩和ケアを提供できる専門医

がんと診断された時からいかなる治療法であっても緩和ケアの提供は必要ですが、重点的に身体(痛み)・精神の緩和ケアが必要とされる患者に専門的に緩和ケアを提供できる医師の養成をしています。

自診療科のみでなく、院内全体からの緩和ケアの診療・相談を受け対応しています。

### ○放射線治療専門医

放射線治療の専門医ですが、当科では、化学療法と合わせた集学的放射線治療、また緩和ケアの提供と合わせた緩和的放射線治療の意義など、包括的な放射線治療について学べます。

長野県下の地域がん診療連携拠点病院(がん専門病院)では、がん薬物療法、放射線治療および緩和ケアの専門医を専従で配置すべきとされ、県下でも信大病院を中心にその教育・指導体制を進めています。当院は都道府県がん診療拠点病院であると共に、日本臨床腫瘍学会、日本放射線治療学会および日本緩和医療学会の認定研修施設でもあります。がん治療の専門医や研究を希望する若手医師には最適の教室で、指導環境も整備しています。

## <ここが魅力>

#### 1) 化学療法、放射線治療および緩和ケアが直接連携している全国唯一の教室

3分野のうちどの専門医になるかは選択となりますが、これらを包括的に研鑽研修できる環境のため、診療範囲の広い専門医師になることができます。

後期研修3年目に従来の総合内科専門医または新・内科専門医取得を目指します。

#### 2) それぞれに実力のある指導者の存在

日本内科学会総合内科専門医、指導医がおり、さらに日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、緩和ケア部門では日本緩和医療学会認定暫定指導医がおり、指導体制は充実しています。

#### 3) がん治療の進歩を直接経験・学べます

各がん種の標準的治療および新規の薬剤治療が経験でき、がん治療の進歩を肌で感じ取ることができます。

#### 4) 臨床研究を行って、最新の知見を発信する

臨床研究は自らの診療レベル向上に重要です。多施設共同または医師主導研究を行って、最新のがん治療の知見を発信できます。

#### 5) 女性医師を応援します。

女性医師のライフスタイルに合わせがん診療、研修できるようにします。

### ① 大学院に入学した場合

研究にて学位取得を、臨床研修にて専門医取得を目指します。

研究テーマを基礎系または臨床系かの選択に応じて、4年間のプランを立てますが、基本的に最低6－12か月の腫瘍内科の臨床研修期間を設定します。

基礎系、および臨床系のいずれにおいても、研究テーマに応じて指導体制を考慮します。

従来および新規の当院の後期研修プログラムのスケジュールに従い、新・内科専門医取得を目指します。

### ② 大学院に入学しない場合

卒後3－8年間; 大学病院勤務で、専門医取得(従来の内科認定医・専門医、新・内科専門医、がん薬物専門医、放射線治療専門医、緩和ケア専門医)を目指します。大学院に入学しなくとも臨床研究のテーマを与え、在籍期間中に学会報告および論文執筆を目指します。

## 当科の研修受け入れの特徴

- 当科での研修期間中に他科(特に内科系)ローテイトを希望する場合も、適宜相談に応じます。
- 大学病院内の他の診療科に所属している医師でも、臨床研修を受け付けます。特に所属診療科以外のがん治療などの研修に有用です。適時相談に応じ、その研修期間も相談の上決めます。
- 他の病院勤務医師であっても、臨床研修の受け入れも可能です。研修期間やその方法も相談に乗ります。また、当院の通院治療室を利用した、曜日指定で毎週来院し研修を行うことも可能です。この方法で研修受け入れは実績済みです。直接ご相談ください。

## サブスペシャリティー・学位取得の道筋

### 内科専門医

当院の内科研修のスケジュールに従う。

### その後のサブスペシャリティー

がん薬物療法専門医、 血液内科専門医、 放射線治療専門医、 緩和医療専門医

### 学位取得に関して

当センターでは希望者には後期研修開始時から医学博士課程(学位)の指導を行う。



肺癌に対する腔内照射の設定



がん性疼痛に対するインターベンション治療

## 大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

- 化学療法に関する研究
  - 1) 唾液、血液および組織検体を用いた抗腫瘍効果予測因子の解析
  - 2) 末梢血液中の標的遺伝子の検出率と分子標的薬剤効果の検討
  - 3) 免疫チェックポイント剤および樹状細胞免疫ワクチン療法などの治療成績や腫瘍免疫に関する基礎的研究
  - 4) 進行期胸腺癌に対する化学療法の検討
  - 5) 縦隔、頭部および性腺由来胚細胞性腫瘍の治療成績と長期管理の解析
  - 6) 多施設共同研究に参加し、症例の集積および解析
  - 7) 長野県における肺癌発症率と死亡率の疫学的研究など
- 放射線治療
  - 1) 定位放射線治療患者の集積とその治療効果の解析
  - 2) 頭頸部悪性腫瘍に対するより効果的照射設定の開発
  - 3) 多放射線治療装置を用いたより効果的な放射線及び化学療法併用治療の開発
  - 4) 局所進行期肺癌に対する化学放射線同時併用療法の治療成績向上を効果的照射法の開発
  - 5) 骨転移に対する効果的放射線療法の検討など
- 緩和ケア
  - 1) QOLの高い疼痛緩和を目指した、新たなインターベンション治療の開発
  - 2) 緩和医療における新たな除痛効果評価法の開発
  - 3) in vivoにおける新たな疼痛緩和治療法の実験的研究
  - 4) 非薬物療法を用いた緩和医療の介入効果とその有用性の検討
  - 5) 緩和医療における漢方薬の有用性の検討など
- 血液悪性腫瘍
  - 1) 悪性リンパ腫に対する新たな薬剤の実験的および臨床的開発研究
  - 2) NK細胞リンパ腫・白血病の病態解析の研究
  - 3) 顆粒リンパ球増多症の病態解析の研究など。

## 国内留学・海外留学

専門医取得または学位取得後、希望に応じて国内でも海外留学でも受け付けます。

## 将来の就職先など

- 大学病院での指導者、研究者を目指す
- 地域がん診療連携拠点病院に勤務
- ホスピス病院、在宅支援医療機関などに勤務
- 国内留学、海外留学

## 連絡先

信州大学医学部 包括的がん治療学教室 教授 小泉 知展

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2554 ■FAX: 0263-37-3302

■Email: tomonobu@shinshu-u.ac.jp

■HP: <http://www.shinshu-comprehensive.jp/index.php>